パナソニック ホールディングス（株）とのリマ・ラ・ペラ診療所の合同視察

（2022 年 10 月 20 日）

写真提供：ワールド・ビジョン

Mother to Mother SHIONOGI Project（以下、M2M-PJ）は 2015 年から国際 NGO ワールド・ビジョン・ジャパンとともに、ケニアの新生児・乳幼児・妊産婦の死亡率低減に取り組んでいます。第 2 期事業地であるケニア キリフィ県 リマ・ラ・ペラ診療所においては、パナソニック ホールディングス株式会社「LIGHT UP THE FUTURE プロジェクト」（以下、LUTF-PJ）の協力を得て太陽光発電システムを設置し、2022 年 9 月より電力供給を通じた医療サービスの提供を開始しています。この度、10 月 20 日にパナソニックホールディングス株式会社、国際 NGO ワールド・ビジョンと合同でリマ・ラ・ペラ診療所を視察しましたのでその様子を報告します。

我々の訪問に合わせて、地域住民の方々が 600 名以上集まり、お母さんたちの歌とダンスで迎えてくれました。キリフィ県知事、副知事も駆けつけ歓迎してくださいました。

Mother to Mother SHIONOGI Project meets LIGHT UP THE FUTURE プロジェクト

M2M-PJ は、妊産婦・新生児・乳幼児を予防可能な死から守り、ヘルスケアシステムの強化を通じて、UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）の達成を目指すプロジェクトです。第 2 期事業では国際 NGO ワールド・ビジョンとともに、ケニアで母子の健康課題を抱えるキリフィ県ガンゼ準県において、「医療施設の整備」、「住民への啓発」、「保健人材の能力強化」に加え、地域の診療所を統括する上位層病院との連携を通じて、地域全体で保健サービスが適切に受けられる仕組みづくりに取り組んでいます。
M2M-PJ の支援対象である 3 つの診療所のうちの 1 つ、リマ・ラ・ペラ診療所では、M2M-PJ を通じて産科棟・臨床検査室・スタッフ宿舎を整備するとともに、医療機材の提供などを行い、地域の医療アクセスの向上に取り組んできました。

臨床検査室

診療所スタッフ宿舎

しかし、地域には安定した電力が届いていないため、ワクチンの保存は不安定なガス冷蔵庫によって行われていたほか、電気が必要な多くの検査機器や医療機器は使用できませんでした。そのため、地域住民はより精密な検査を受けるために、遠くの医療施設まで出かけなければならないという課題がありました。

そこで、M2M-PJ とリマ・ラ・ペラ診療所に協力の手を差し伸べて下さったのが、パナソニック ホールディングス（株）の LUTF-PJ でした。

M2M-PJ で建設した産科棟の屋根には、LUTF-PJ から提供されたソーラーパネルが敷かれ、その横に建設された蓄電棟に蓄電システムが設置されています。
これまで電力の供給が不十分だったリマ・ラ・ペラ診療所に、電気が安定的に通ったことで、医療に必要な検査、治療ができるようになりました。

産科棟に設置された太陽光発電システム

蓄電システム（内部）

医療従事者やお母さんからの感謝の言葉

医療従事者：お母さんたちが安心して夜間出産ができるようになり、救急産科ケアにも対応できるようになりました。電気冷蔵庫設置のおかげで安定してワクチンを保存できるようになり、子どもの予防接種もスムーズに実施できています。様々な医療機器を利用できるようになったことで、医療サービスの改善にもつながっています。塩野義製薬、ワールド・ビジョンとパナソニックに感謝します。

お母さん：これまで検査を受けるために遠くの準県病院まで行っていたのですが、近くのリマ・ラ・ペラ診療所

で様々な検査を受けられるようになり、これまでにかかっていたバイク燃料費がかからずに済むようになりました。

お母さん：これまでリマ・ラ・ペラ診療所には電気が通っておらず、夜は暗く、夜中の出産には対応してもらえませんでした。また、夜間の救急の時も、暗いため医療を十分に受けられませんでした。今はソーラーパネルが設置されたことで、24 時間医療サービスを受けられるようになりました。診療所を整備してくれて、電気を提供してくれて本当にありがとう。

医療施設と電気によってより充実した医療サービスの提供へ

県知事が医療機器の利用状況を確認

視察時には、産科棟の横にある貯水タンクから、臨床検査室・外来棟にも給水パイプラインをつなぐ工事が進んでいました。電気式のポンプで送水することによって、医療に使うための水を各建物でも利用できるようになります。
また、今後増築される産科棟、医療従事者宿舎、屋外の電灯にも配線が行われ、蓄電システムの電力が各設備へ届けられる予定です。

また、当日は増築される産科棟の着工式が行われ、地域住民の方々による建設が開始されました。

「健康管理を自立的かつ持続的に行えるコミュニティ」を目指して

M2M-PJ では、「お母さんと子どもたちの健康管理を自立的かつ持続的に行えるコミュニティの実現」を目指しています。そのために、医療施設の整備だけではなく、地域住民が自分たちで健康管理を行えるよう、またこれまでの活動が持続するよう、栄養教育や収入創出活動（養鶏、家庭菜園、貯蓄貸付活動）にも取り組んでいます。

養鶏の様子

家の中に設置された孵化装置

お母さんたちは、M2M グループ（お母さん同士のピア教育）活動を通じて鶏を入手し、育てる知識を得ています。養鶏により産まれた卵を家族の貴重な栄養として摂取しています。また、卵を孵化させて鶏の数を増やし、その鶏を売って得たお金でさらにヤギを買うなど、収入を生み出していくことにもつなげています。
訪問した家庭では、自分たちで自宅の屋根にソーラーパネルをつけ、電気を使って孵化装置（インキュベーター）を利用していました。電気は医療だけでなく、人々の暮らしにも必要不可欠であることを改めて認識しました。

無電化地域に再生可能エネルギーによるあかり/電気を届け、あかりを活用したコミュニティの自走を目指すパナソニック ホールディングス（株）、現地政府、住民から高い信頼を得て地域に根差した支援活動を行っている国際 NGO ワールド・ビジョンとの連携を深め、M2M-PJ は今後も、それぞれの強みを活かすコレクティブ・インパクト※を通じて母子保健の課題解決に向けて取り組んでまいります。

※複数の組織（企業や行政、NGO/NPO など）が協力し、社会課題の解決に取り組むことで効果を最大化すること